

しゅん か しゅう とう
春 夏 秋 冬

《岁时》焰火晚会

日本夏季风景诗之一的“焰火晚会”，每一年都在各地举行。

关于焰火的起源，有诸多说法。但毫无疑问的是，现在焰火的主要原材料—火药，是中国人发明的。而日本的火药是在 1543 年，伴随着洋枪，经种子岛（たねがしま，位于鹿児島县）传入并开始使用的。

现在，世界各地都制造焰火、并且在各种各样的大型活动中，焰火往往被用于烘托气氛，点缀精华。其中，日本焰火的制造水平，居世界之冠。

日本焰火的种类很多，其中在焰火晚会上放升的是一种被称为“夜花火”的焰火。而这种夜花火，又拥有菊尖、牡丹、叶落、锦冠、椰树、虎尾、青蜂、土星以及连环等繁多的形状，其大小也不尽相同。现在焰火大会上所放升的、最大的 3 尺球（30 号球）焰火，其外圆直径约为 90 厘米、据说升空高度和烟花散开时的直径，都达到了 600 米。

今年也将在如下地区举行大规模的焰火晚会。敬请我们的读者，能在这些、以及您所居住地区举办的各种大、小焰火晚会上，观赏到美丽的焰火，让夏季的炎热，随着腾空的焰火逝去。

◎放升焰火数量最多的三个地区

- 1 35,000 颗 境町利根川焰火晚会（群馬县）/2004. 8. 14 举行
- 2 33,000 颗 諏訪湖节湖上焰火晚会（长野县）/2004. 8. 15 举行
- 3 30,000 颗 全国优选长良川中日焰火晚会（岐阜县）/2004. 7. 3 举行
- 3 30,000 颗 袋井远洲焰火晚会（静岡県）/2004. 8. 7 举行

◎观众人数（2003 年实际数字）

- 1 1,390,000 人 江戸川区焰火晚会（东京都）/2004. 8. 7 举行
- 2 1,150,000 人 关门海峡焰火晚会（福冈县）/2004. 8. 13 举行
- 3 950,000 人 隅田川焰火晚会（东京都）/2004. 7. 31 举行

《岁时》花火大会

日本の夏の風物詩の一つである「花火大会」は、毎年全国各地で催されています。

花火の起源には諸説がありますが、現在の花火の主要な原材料である火薬が発明されたのは中国であることは間違いありません。日本へは 1543 年に鉄砲とともに火薬が種子島（鹿児島県）に伝来したのが始まりです。

現在、世界各国で様々な花火が製造され、いろいろなイベントの演出に花火が大いに活用されています。その中で、日本の花火は世界一の水準に達しています。

日本の花火の種類は数多くありますが、そのうち花火大会などで使用されるのは打上花火のうちの夜花火です。この夜花火についても、菊先、牡丹、葉落、錦冠、やし、トウの尾、青蜂、土星、リングなどいろいろな形のものがあります。大きさも大小様々ですが、現在も花火大会で実際に打ち上げられているものの中で最大の 3 尺玉（30 号玉）の外径は約 90 cm で、開く高さの開いたときの直径はいずれも約 600 m にもなるといいます。

今年も、大規模な花火大会が次のように開催されますが、本誌読者の皆さんもこれらの花火大会や地元で開かれる大小の花火大会を鑑賞して、暑さを吹き飛ばしてみたいかがでしようか。

◎ 打上花火数のベスト 3

- 1 35,000 発 境町利根川花火大会（群馬県）/2004.8.14 開催
- 2 33,000 発 諏訪湖祭湖上花火大会（長野県）/2004.8.15 開催
- 3 30,000 発 全国選抜長良川中日花火大会（岐阜県）/2004.7.3 開催
- 3 30,000 発 ふくろい遠州の花火（静岡県）/2004.8.7 開催



- ◎ 観客数 (2003年実績)
- 1 1,390,000人 江戸川区花火大会 (東京都) / 2004.8.7開催
 - 2 1,150,000人 関門海峡花火大会 (福岡県) / 2004.8.13開催
 - 3 950,000人 隅田川花火大会 (東京都) / 2004.7.31開催